

令和5年度自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成  1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく
-------------------	---

今年度の重点目標	1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく ①進路目標の明確化 ②基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく ①基本的な生活習慣の確立 ②生徒会活動・部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく ①学校行事・学級活動の充実 ②安全意識・安全技術の向上 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく ①「地域探究の時間」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 ①業務の精選と組織的な実施 ②生徒への適切な対応
----------	---

評価基準 A:十分達成 (90%) B:概ね達成 (70%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (35%程度) E:目標・方策の見直し (20%以下)

年 度 当 初					評 価 結 果 ( )月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和4年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	○ふるさとキャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 <指標> 1年:全員が具体的なキャリア目標を1つ以上掲げる。 2年:3つ以上の進路候補について比較・調査を行う。 3年:具体的な進路先について志望理由を明確にさせ、進路実現する。	○1年生:進路学習を体系的に行い、キャリア形成を図る取り組みを行った。 ○2年生:3回の進路志望調査を通して進路候補について比較・調査を行い、キャリア形成の意識が高まりつつあるが、まだ不十分であった。 ○3年生:総合的な探究の時間を活用し、2学期から将来のキャリアを意識して、毎週進路別学習を行うことができた。また、担任面談をこまめに行い、学校調べや志望理由書の作成等の時間を確保することができた。放課後には出願書類の添削・面接練習、プレゼンテーションに向けての準備を個別に教員とともに行った。 <R4実績> ・1年:ほとんどの生徒が具体的にキャリア目標を1つ以上掲げることができた。 ・2年:3つ以上の進路候補を掲げることができた生徒は5割程度だった。 ・3年:すべての生徒が進路実現できた。	○1年生:「総合的な探究の時間」を基軸とする体系的な進路学習を通して、自己実現につながるキャリア目標を設定させ、地域社会の担い手としての自覚を促す。 ○2年生:進路ガイダンスや大学等研修などの進路行事を通して視野を広げ、具体的な進路候補について比較、検討させる。また、進路志望調査をもとに生徒一人ひとりの進路目標を把握し、個々に応じたアドバイスを行う。 ○3年生:「総合的な探究の時間」を基軸とする進路別学習の充実を図る。また、進路検討会において、教職員間で情報共有とキャリア目標を実現するための個々にあったアドバイスを検討し、面接週間だけでなく模試の前後など機会をとらえて担任面談や教科面談を行う。 ○全学年:多様化する入試制度に対応するための教職員研修を実施し、教職員の進路指導力向上に努めるとともに、地域とのつながりを体験することを通して将来の生き方・在り方を考えさせるため、ボランティア活動を奨励する。			
	基礎学力の向上	○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取組んでいる。 <指標> 進研模試・進路マップ(実力診断・基礎力診断)・スタディーサポートで、GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・50%以上 ・2年:3教科総合・・・50%以上 ・3年:3教科総合・・・50%以上	○1年生:授業で学力をつけることを第一に据え、習熟度に対応した考査や個別添削、進進者への学習指導などを行い基礎学力の定着に努めた。 ○2年生:授業を大切に、考査前指導や課題の提出指導を行ったが、学力向上の取組を十分に進めることができなかった。 ○3年生:大半が総合選抜・学校推薦型入試を活用したため、志望理由書作成や小論文・面接対策に意識がいき、学力向上の取組を十分に進めることができなかった。 <R4実績> GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・56.2%(1月模試との比較) ・2年:3教科総合・・・19.0%(1月模試との比較) ・3年:3教科総合・・・7.3%(7月模試との比較)	○1年生:授業第一主義を徹底するとともに、「総合的な探究の時間」やLHRでの取り組み、個別面談を通して学びの意義を理解させ、学習意欲を喚起する中で、授業を通して教科書の基礎・基本の徹底を図る。 ○2年生:スタディサポートの課題の取り組みやスタディサブリの課題、動画・確認テストを計画的に配信することを通して、家庭で学習する習慣付けと弱点の補強に努める。 ○3年生:学力の定着や模試の意義に関する進路講演会を行うとともに、卒業後を見据え、模試や到達度テスト、事前教材を活用して学力向上を図る。 ○全学年:基礎学力の向上に向けて、全教職員共通理解のもと授業改善に努める。授業「わかる」→課題「できる」→確認テスト「できるを確かめる(実感する)」のサイクルを回す。			
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的な生活習慣の確立	○生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 <指標> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)が生徒数の70%以下となる。 ・頭髪・服装指導対象者数、生活指導対象者数が前年度よりも減少している。	○クラス担任、生徒会の協力も得ながら、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。 ○指導票の活用とともに、保護者への連絡をとりながら、生徒指導を進めている。服装検査での指導件数は減少してきているが、服装検査時以外で化粧・スカート丈で指導を受ける生徒がみられる。生徒の問題行動等は令和3年度より減少している。 ○遅刻者数は、令和3年度よりも増加した。 <R4実績> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)は、生徒数の129.8%。 ・生活指導対象者数は、前年度より15.6%減少した。	○教職員の日々の声かけにとどまらず、保護者への連絡の機会を逃さず行い、生徒自身の個々の物事に対する考え方の改善を図る。(基本的な習慣の確立、マナー・モラルの向上) ○生徒会執行部及び教職員による朝の挨拶運動を継続していく。 ○定期的に学年間での情報共有を行い、全学年で統一した生活指導を行うとともに、機会をとらえて、生徒の規範意識の醸成を図る。 ○生徒会が主体となり、執行部・生活委員会を活用し、教室環境の整備や学校の校則(主に服装に関する事項)の見直しを進める。その取組を通して、より良い学校づくりに主体的に参画する意識を多くの生徒に身に付けさせるよう促す。			
	生徒会活動・部活動の充実	○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。 ○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身につけている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コースの生徒は、講演会や講習会を通して、トップアスリートを目指す意識レベルを高めている。 <指標> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ85名(全校生徒の3割)以上となる。	○育英祭に向けては、クラスLHRの回数、各委員会の回数を増やすことで、生徒主体で準備ができた。アンケートでは「全体的によかった」が98%であった。 ○10月に後期生徒会役員選挙を実施。会長副会長ともに投票による選挙となった。新執行部体制のもと球技大会を行い、生徒が主体となったより良い学校づくりを進めた。 ○3年体育コース(17名中)上級学校へ進学する生徒は14名おり、その内7名が競技を継続する。 ○全国高校総体に陸上・レスリング・ソフトボールが出場し、男子バレーボール部は全日本バレーボール高等学校選手権大会に6年連続出場した。また、レスリング部は全国選抜大会に団体・個人(5名)が出場する。 ○山岳部はクライミング競技で日本代表として2名が世界大会に出場した。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」・・・96%。 ・県大会優勝のべ6部。全国大会出場8部、全国大会出場者数のべ93名。	○主体的に生徒会活動を行うことができるよう支援するとともに、執行部や各種委員のリーダーシップを育成する。 ○行事におけるクラス内での係りの仕事を共有できるようクラスに提案する。 ○部活未加入者にボランティアサークルに加入するよう呼びかけ、ボランティアなどに参加するよう促す。(体育コース) ○スポーツ・文化芸術活動重点校として、体育コースの取組である「各種講演会・講習会」を通じ、競技力の向上に繋げていく。			

年 度 当 初					評 価 結 果 ( )月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和4年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・学級活動の充実	○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。  <指標> 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○育英祭では、ルールを守り、各クラスがよく協力して取り組めた。 ○体育コースの行事については、コロナの影響により、3年キャンプ実習が宿泊なしの日帰り3日間で実施した。2年生のスキー実習も宿泊なしの3日間で実施した。1年生の環太平洋大学研修は日帰りで実施、上級学校への意識付けができた。大運動会では、企画・準備段階から意識をもって取り組めた。1,2年生対象の各種講演会も計画通り進んでいる。 ○9月に行われた運動会では、2年生体育コースも集団行動に参加し、協力して実施できた。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」・・・98%	○育英祭をはじめとする学校行事やLHRなどでは、クラスの運営委員にクラス全員で協力できるような支援を行い、人間力の育成につなげる。 ○執行部員が中心となり、学校行事を企画する。(体育コース) ○「各種実習」を実施し、人間性や協調性を養う。 ○定期的に体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。			
	安全意識・安全技術の向上	○生徒が安心して安全に学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。  <指標> 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○救急救命講習は、冬季休業中に実施した。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月・7月)2学期に1回(9月)3学期に1回(2月)実施した。その結果は、環境保健部と各学年で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」・・・95% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・93%	○教職員及び生徒(部活動各役員)対象の救急救命講習を今年度も実施し、全員の受講をめざす。 ○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関するアンケート」を今年度も年4回実施するとともに、全教科・全領域にわたり、組織的な対応を図る。			
地域を支える社会人として必要な資質が身につく	「地域探究の時間」の発展・充実	○1年生:探究活動の基礎的な知識・技能を身につけている。 ○2年生:探究活動の実践を通し、自己肯定や社会貢献に対する意識の高まりとともに、ソーシャルスキルの向上が見られる。 ○3年生:探究活動の学びが自らの進路実現へつながった。  <指標> 1年:「地域探究入門」の事後アンケートで、「探究活動の基礎的な知識・技能が身についた」と感じる生徒が90%以上となる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して10%以上向上する。 3年:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」と自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。	○1年生:テキストを使用し、スキル学習を中心に10時間の活動を行った。また、2年生のフィールドワークを見学に行き、次年度の活動をイメージさせた。 ○2年生:地域の方々にお世話になり、フィールドワークやインタビューを通じて地域課題の解決を考察し、発表にまとめた。そのうち1チームが「中部高校生フォーラム」に参加した。また、校内発表会で選考された代表チームは岡山県真庭高校探究成果発表会に参加した。 ○3年生:卒業時アンケートにおいて、「地域探究の時間」の学びが進路実現につながった。」の項目に肯定的な回答した生徒は、53%であった。 <R4実績> ・1年生:「探究入門」の事後アンケートで「探究活動の基礎的な知識・技能が身についた」・・・94% ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して1.9%減少した。 ・3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】・・・53% 【地元の魅力をたくさん知った】・・・91% 【地元で働きたい】・・・64% 【地元で暮らしたい】・・・74%	○1年生:1学期に職を通して社会と自分との関りを考えることで、キャリア意識を高め、2学期から実施する「探究入門」の授業につなげる。 ○2年生:生徒たちの興味関心・問題意識を中心とした課題設定をするために、年間計画やグループ分けの方法・教員配置の仕方などの環境を整備する。また、地域の方々と連携しながら、フィールドワークなどの体験活動を行うとともに、その振り返りを行い、社会貢献に対する意識を高める。 ○3年生:進路探究の学びや複数の教職員との面談を通し、自らの問題意識やあり方等を見つめ、自分自身の進路目標を明確にさせる。			
業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。  <指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。	○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について話題にし、互いに声かけを行うことで、教職員自身の自覚を促し、時間外業務の減少につながっている。 <R4実績> ・時間外業務が月45時間を超えた教職員はのべ3人、年360時間を超えた教職員は0人。	○業務の平準化を図るため、分掌再編を行った。 ○教職員のシステム入力を徹底し、適宜、見直しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。 ○部活動の在り方に関する方針を遵守し、各部活動が見通しをもって活動できるよう、部活動の年間計画及び月間計画の見直しを行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、意識や意欲を高め、限られた時間内での活動の効率化を図る。			
	生徒への適切な対応	○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。  <指標> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度より減少している。	○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。また、昨年度に引き続き、推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにした。 <R4実績> ・3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員は1人。	○引き続き、時間外業務が特に多い教職員には、適宜、声かけを行い、時間外業務の実態を把握する。また、3年生への個別指導を教職員で協力して行う。			